

令和7年度 学校自己評価システムシート

学校評価委員会作成

目 指 す 学 校 像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
-------------	---

重 点 目 標	1 どのような力を生徒に身に付けさせるのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。 2 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 3 安心で安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 4 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
---------	---

- ※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者・第三者評価実施日とは、
最終回の学校関係者・第三者評価委員会
を開催し、学校自己評価を踏まえて評価
を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価								学校関係者・第三者評価
令和7年度目標					令和7年度評価（令和8年3月31日 現在）			実施日 令和8年3月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者・第三者からの意見・要望・評価等
1	3コース制が4年目に入る。それなりの成果は収めている。生徒の進路希望などが異なるため、コース毎に設置したコース会議を活性化し学力の向上及び進路希望実現を図っていくことが課題である。 「総合的な探究の時間」の中心に位置づけている研修旅行を、希望により海外と国内で実施する。その成果を踏まえて論文作成に繋げていく取組が課題である。	①コース毎に実施する独自の取組 ②グローバル人材の育成について、継続及び新規事業の取組 ③「総合的な探究の時間」の取組	①各コースの特性を踏まえたガイダンスや課題研究学習の充実を図り、生徒一人一人が適切な将来設計ができるような教育支援を行う。 ②オーストラリアサマーキャンプを効果的に実施する。インターナショナルプログラムのうち、海外大学進学説明(1、2年)及び夏の英語プログラムの具体的な運営と評価を行う。 ③1年次からの取組が、2年次でのテーマ別研修及び現地調査に役立っているかを検証する。	①生徒一人一人が将来を具体的に考え、計画を立てることができているか。 ②実施した事業について、生徒・保護者の満足度調査を実施し、その結果を次年度以降の改善に繋げることができたか。 ③各個人が決めた研究テーマに沿い、論文を完成することができたか。				
2	学習意欲を向上させ、自主自立の精神を養うための指導を継続して行っていく。引き続き、自学自習の習慣化の定着を図っていくことが課題である。 進路指導関係では、将来の職業を見据えた大学選びや学部選びが主体的に行えるように進路指導を行っている。そのために、1年次からはじまる進路計画で一人一人の進路実現を図るため、3年間の段階的なプログラムを実施していくことが課題である。	①学習習慣の確立と平日の学習時間の増加 ②自学自習を促すための環境づくり ③主体的・自主的な進路選択力の育成 ④教員の資質向上への取組	①担任がクラッシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる。 ②特別自習室と図書館の自習スペースの有効活用を進める。併せて、安全対策についての方策を検討する。 ③本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する。予備校講師による特別 YG ゼミを実施する。 ④授業評価アンケートの実施や研究授業等を通して授業改善に取り組み、授業力の向上を図る。	①生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭学習時の間が増えたか。 ②昨年度と比較して2つの自習室の稼働率が上がったか。 ③系統別分科会(1年次)、ブース形式で行う学校別分科会(2年次)等を通じて、進路意識が高まったか。また、高大連携事業が生徒の進路実現に繋がっているか。 ④生徒の学校満足度調査の結果から、教員の授業力が向上したか。				
3	生徒は規律ある学校生活を送っている。今後も生徒がさらに主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことが課題である。	①基本的な生活習慣の確立 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実	①風紀委員会が実施している「校則見直しのためのアンケート」を継続して実施し、生徒指導部を中心に見直しを進める。 ②コロナ禍後の部活動・生徒会活動・学校行事等について、生徒の主体性を育む観点から、教育活動全般について見直し、さらに活性化させる。	①校則の見直しをすることで、生徒がより主体的に校則をとらえ、守ろうとすることができるようになったか。 ②生徒会主催の学校行事で、主体的な活動が見られたか。部活動の実績が昨年度同様かそれを上回ったか。				
4	保護者や地域との連携を密にし、学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信し、開かれた学校を目指す。 昨年同様に中学校・塾や地域との連携を密にし、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。 教材研究や事務作業などで教員の勤務時間が長くなっている。働き方改革を推進する必要がある。	①信頼にこたえる開かれた学校づくり ②情報発信と生徒募集の強化 ③教員の働き方改革の推進	①今年度は定期的に委員会を開催し、各委員からの意見を参考にして、開かれた学校づくりを推進していく。 ②HPやインスタグラムなどをとおして学校の最新情報を発信し続ける。また、教職員が丸となり、学校の特色を強く打ち出して塾訪問・中学校訪問・個別相談会等を実施していく。 ③生徒の遅刻管理(遅刻確認システム)の電子化に取り組む。クラッシーの申請提出物フォームの利用を始める。また、非常勤講師の先生方に iPad を貸与する。	①委員と教職員が意見交換を行い、その成果を学校運営や改善に役立たせることができたか。 ②学校説明会や個別相談会を通じて、募集人員に関する分析を行い、目標とする定員確保ができたか。 ③教員の超過勤務時間の削減ができたか。業務の電子化・脱判子化が進行したか。				